

伝説、民話ウオッチング

●蛇塚

鞍掛山を越え、宮田町と滑川町の接する山林の中に蛇塚があり、梵字一字の下に蛇伏羲之墓と刻まれた石碑がある。

むかし、この辺りに大蛇が住み、村人達に危害を加えたので、宮田の武人、水庭若狹守が大弓で蛇を射止めた。村人達は祟りを恐れ、石碑を立て供養したという。

●平内屋敷跡

蛇塚の近くに清らかな水の流れる一筋の小川がある。昔はこのあたりに池があり、その下方に平内屋敷という所があったという。村人達に伝わる話では、平家落人の姫と家来達の住み家だったとか、蛇塚の蛇（実際は人間か？）と関係があったと言われている。

●大男の足跡

むかし昔、大きな男が海よりあがってきて、左足を仲居（東滑川町2丁目）に、右足をソバナゴの畑に開いて小用をしたんだとき。その小用の跡が平内屋敷だそうだ。

●滑川の八幡清水

清水地区内には自然に湧き出ている井戸が2か所ある。昔、八幡太郎義家が奥州征伐の途中、兵士の咽喉をうるおすため、矢を地面に突き刺したら湧き出したという。（これは、助川の八幡清水と同じような伝説である。）

●十兵衛むじな

昔、腹に十文字の模様のある十兵衛むじながいた。ある夜、線路上でお月様に化けたら、驚いて汽車が止まってしまったそうだ。

滑川八景ウオッチング

八景の起源は中国の瀟湘八景で日本では近江八景や金沢八景、水戸八景等が名高く、水戸以北にも32の八景がある。滑川八景は江戸末期につくられたといわれ、典型八景といって詩句、地形、景色等

の一定のパターンに即して、場所を選定し、詩歌を詠んだものである。

●北釜の夕照（滑川浜の一角）

北釜に 汐くむ海女の かげ消えて 松の梢に 残る夕映え

●田島の秋月（滑川浜通り・田島）

うき雲のはれてうれしく見ゆるかな 田島の里の秋の夜の月

●小幡の落雁（高鈴の峰越える小幡）

友よばう声高鈴の峰越えて小幡の田面かりおちるなり

●鳥ヶ沢の夜雨（鳥ヶ沢の低地）

賤ヶ家の灯りほぐらき鳥沢いとすかなる夜の雨かな

●館跡の晴嵐（館跡）

館跡の松の嵐の音たえて 晴るる海路を唐船のゆく（晴嵐…青葉の頃のやや強い風）

●六所の暮雪（塩釜神社付近）

山の端に夕ぐれそめてふる雪に六所の木々は六の花さく

●海雲山の晚鐘（海雲山観音院）

花おしむ人の家路をいそぐかな 海雲山の夕ぐれのかね

●清水の帰帆（清水浜）

真帆白く海は碧に夕映えて する清水にかえるつりふね

街路樹と巨樹ウオッチング

●滑川丘通りの街路樹

2.08kmのアメリカ楓の街路樹347本。（守る会が知事賞等を受賞）

●蔵前のシイの巨樹

樹齢約350年、幹廻り（目通り）約4.1m。

●稲荷神社のシイの巨樹

樹齢約150年、幹廻り約2.5m。

●天王様のシイ・サクラの巨樹

樹齢約300年、幹廻り約3.2m。

●荒屋の桜（団地北側の墓地内）

樹齢約300年、幹廻り約3.9m。

マップ発刊にあたって

住まちを学び舎とする学習は、新たな人の生き方、新しいまちづくり、そして住民相互の連帯をめざすものです。このマップは、その学習のための一つの教材です。

滑川地区のあゆみと略年表

- 原始時代** ◎縄文早期の遺跡から古墳後期の遺跡が、海岸段丘上に点在する。
・紀元前数千年より以降……滑川一里塚、金木場、向畑、曲松、モガキ平、蔵前、舞台ヶケロ内、寺台、滑川浜館跡、明神越などの遺跡
- 奈良時代** ◎律令制のもと、滑川は道前里（みちのくちのさと：滑川、田尻、小木津あたり）に属し、金木場にはそのころの遺物から、里長が住み役所があったと推察される。
・690年前後（推古天皇）……この頃、仏が浜に観世音菩薩が彫られたといわれている。
・713年（和銅6年）……常陸国風土記が編さんされ、仏ヶ浜等の記事が見られる。
・8世紀～9世紀頃……金木場、向畑遺跡には数多い住居跡（一部調査で90戸）があり、墨書土器や青銅器帯金具、焼印等の遺物が出土。
- 平安時代** ◎律令制が衰退し、武士が興起する。常陸国北部は奥七郡と称し、佐竹氏の支配地で、滑川は佐都東郡助川郷（成沢、相賀、助川、宮田、滑川）に属していた。
・812年（弘仁3年）頃……この頃、弘法大師が度志観音に立ち寄り、寺を建立したといわれる。（伝説）
・1177年～1181年頃……この頃、田尻の小島に住む栄蔵という修行僧を西行法師が尋ねてきて、（治承1～5年頃）歌を詠んだという。（伝説）
- 鎌倉時代** ◎佐竹氏は源朝宗に攻められて奥七郡を没収され、一時は宇佐美氏ほか、地頭等が支配したときもあったが、佐竹氏は幕府の御家人となり失地の回復に努めた。
- 南北朝～室町** ◎佐竹氏は、南北朝争乱で足利尊氏に忠勤を尽し、再び奥七郡を支配した。佐竹氏の重臣、小野崎氏が十王、友部に築城したほか、その一族が、北部の要地に城砦を築いて勢力を張り、滑川にも館が築かれた。
- 戦国時代** ◎1470年（文明2年）……南無 寿星が度志観音に参詣の後、天童山大雄院を開基する。
・1490年（延徳2年）頃……小野崎直通が、滑川の地に館をつくり居住する。
・1545年（天文14年）頃……小野崎直通が、滑川から相賀館に移る。
滑川の館には、石神の同族、小野崎左衛門が入る。
・1575年（天正3年）……小野崎氏の請により、大雄院九世古山元利禪師が滑川観音院を開基する。
・1585年（天正13年）……塩釜神社が陸奥国の塩釜神社より分霊して遷座される。
・1585年（天正13年）……若城親隆が南進し、滑川の館も取れたという。（異説あり）
- 織豊時代** ◎秀吉が天下を統一し、佐竹氏が常陸国を統一する。検地が行われ、地方制度は国、郡、村制となり、日立地方のほとんどは多珂郡に属した。
- 江戸時代** ◎佐竹氏は秋田に移封され、徳川御三家の一つ、水戸藩の支配地になる。滑川村が誕生し、村は行政の末端単位として、庄屋などの村役人を置き村政に当らせた。
・1639年（寛永16年）……滑川村が田尻村より分村し誕生する。
・1641年（寛永18年）……寛永の検地実施される。滑川村立会人（佐竹）借助、大和田佐十、他3名が当る。
・17世紀後半頃……この頃、滝作の溜がつくられたものと推察される。
・1838（天保9年）頃……この頃、滑川の浜で製塩が盛んに行われるようになる。
・1844年（弘化1年）……滑川村の六郎左衛門が砂鉄製鉄を願ひ出る。
・1864年（元治1年）……助川城落城。山野辺義雲夫人、一時観音院に身を隠す。
- 明治・大正時代** ◎憲法が制定され、市制、町村制が施行される。滑川村と宮田村が合併して日立村が誕生し、さらに大正末期には日立町へと発展する。
・1873年（明治6年）……石井轟三氏、観音院に学校を開き、まもなく校舎を蔵前に移す。翌年、名称を滑川小学校とし、地名を用いる。
・1889年（明治22年）……滑川村と宮田村が合併して日立村となる。（日立の地名のはじまり）合併で、旧滑川小学校は日立尋常小学校となる。
・1890年（明治23年）……蔵前の日立尋常小学校が火災により焼失する。
・1897年（明治30年）……宮田の地に新校舎が落成する。（宮田小学校）
・1913年（大正2年）……区悪強盗により観音院住職が殺され、寺は放火される。
・1924年（大正13年）……町制が施され、日立村は日立町となる。
- 昭和・平成時代** ◎第二次世界大戦後の産業、経済の発展で、滑川地区も急変はうする。
・1939年（昭和14年）……日立町と助川町が合併して日立市となる。
・1955年（昭和30年）……町村合併により、新日立市に発展する。
・1965年（昭和40年）……国道6号バイパスができて、滑川各地の開発がすすむ。
・1973年（昭和48年）……滑川小学校が宮田小学校から分離して開校する。
・1974年（昭和49年）……滑川地区市民運動実践会が結成される。
・1981年（昭和56年）……滑川中学校が創立開校する。
・1988年（昭和63年）……日立市滑川公民館が竣工し、開館する。

滑川ウオッチング

ひたちコミュニティマップ

